

BEST AVAILABLE COPY

JP- A- UM 49-11740

57) Claim of Utility Model

A lens-barrel, characterized by arranging an O-ring made of elastic material at a connecting portion between an outer periphery of the lens and a retaining metal in such a manner of enabling to push both at the same time for holding the lens via the O-ring by a lens pushing ring.

Brief Explanation of the Drawings

Figure 1 is a cross sectional view of the lens-barrel according to the present device, Figure 2 is the cross sectional view of the lens-barrel according to the prior art, and Figure 3 is comparisons in strain occurrences of the lenses between the prior art and the present device. 1 ... lens pushing ring, 2 ... lens, 2a ... chamfered portion of the lens, 3 ... lend retaining metal, 3b ... stepped portion for the retaining metal, and 4 ...

0-ring

(9 日本国特許**庁**

题日本分類104 A 0103 C 7

公開実用新案公報

庁内整理番号 6952-23 6239-23 ⑩実開昭49-11740

④公開 昭 49(1974)・1.31

審查請求 未請求

@レンメ鏡筒

②夷 顧昭47-5035.9

22出 願 昭47(1972)4月28日

72考 案 者 望月膀郎

川崎市高津区宮崎 71の5

砂出 願 人 キャノン株式会社

東京都大田区下丸子3の30の2

邳代 理 人 弁理士 丸島饒一

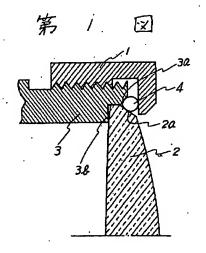
砂寒用新案登録請求の範囲

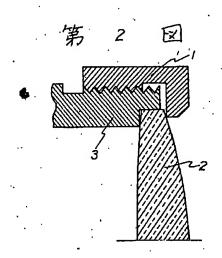
レンズ外周と保持金物との接合部に弾性材料か

ら成る0リングを両者を同時に押圧し得る如く配置しレンズ押え環により該0リングを介してレンズを押えるようにしたことを特徴とするレスズ鏡筒。

図面の簡単な説明

第1図は本考案の鏡簡断面図。第2図は従来の鏡筒断面図。第3図はレンズの歪発生を従来のものと本考案のものと比較したものである。1……レンズ押え環、2……レンズ、2a……レンズ面取部、3……レンズ保持金物、3a……保持金物面取り部、3b……保持金物段部、4……0リング。





第 3 図

| MATHY | 1 Kg - cm | 2 kg-om | 3 kg-cm | 5 kg-cm | カヨかせ |
|-------|-----------|---------|---------|---------|------|
| 従来·方法 | | | | | |
| 考案·方法 | | | | | |



(1.500円) 実用新案登録願の

昭和47年4月28日

特許庁長官 井 土 武 久殿

- 1. 考案の名称 レンス 競賞
- 2. 考 案 者

供所神奈川県加崎市高津色管崎 71-5 氏名 暂 背 解 配 (他 0 名)

3. 実用新案登録出願人

作 所 東京都大田区下丸子3-30-2

名 称 (100) キャノン株式会社

代表者 御 手 洗 毅 (他 0 名)

4. 代 理 人

別 所 東京都大田区下丸子3-30-2 キャノン株式会社内

氏名 (6987) 亦理士 丸 易 後 一

- 5. 添附書類の目録
 - (1) 明 輔 書
 - (2) 位 面
 - (3) 额沙副本
 - (4) 委 征 状



47 050359

49-11740-01

范达

117

明 細

- 1.考案の名称 レンス鏡筒
- 2 実用新案登録請求の範囲

レンズ外間と保持金物との接合部に弾性材料か ではるのリングを両者を同時に押圧し得る如く配 酸しレンズ押え嫌により該のリングを介してレン ズを押えるようにしたことを特徴とするレンズ鏡 简。

3. 考案の詳細な説明

征来、與简目においてレンズを保持する際に第 2図に示す如くレンズ押さえ現によつて直接レンズを押さえる方法がとられて来た。しかしこの方 法では保持金物/押さえ境の部品材度がレンズの 在発生に大なる必得を与える。

またこの部品権度を理論値通り仕上げることは工 程能力上不可能に近くレンズを全周で押さえると とが困難となり症の発生が大であつた。本考深は この欠点を除去するために第1回に示す如く弾性 部材のロリングを鋭筒内に使用し該ロリングを介 してレンズを押さえることにより従来の欠点を除 去するものである。

本考案の1 実施例を図について説明すると第1 図において1 はレンス押さえ収、2 はレンス、3 はレンス保持金物でレンス2 はその外間が保持金 物3 に嵌合すると共に球面が保持金物の段部3 b

レンズ外周と保持金物は失々囚に示す如く大きく 画取りを施され両面取部2a,3aによつて頑状 の滞が形成される。4は弾性材料(例えば人造ゴ ム)から成るのリングで両面2aと3aとに接す るように配置される。レンズ押さえ取りを保持金 物3の外周のねじ部に嵌めて締めつけるとレンズ

2

は0リング4を介して押さえられ続筒内で同定される。

本考案は上述の様な構成で(リング4を介してレンズ2を押さえるようにしたので以下の様な利点を有するものである。

1.0リング4に弾性があるので部品構度が悪い場合でもレンズ2にかかる力が一様に分布する。 2神さ之城1の縮付け力をレンズ保持金物3とレンズ2に分散させ、レンズ2にかかる力が減少する。

3.0リング4の摩擦刀が大であるのでレンズ押さる 意境1の締付トルクを増してもレンズにかかる力 は小さい。

4. 簡単な図面の説明

第1回はな考案の短筒断面図。

第2 同は促来の範間断面図。

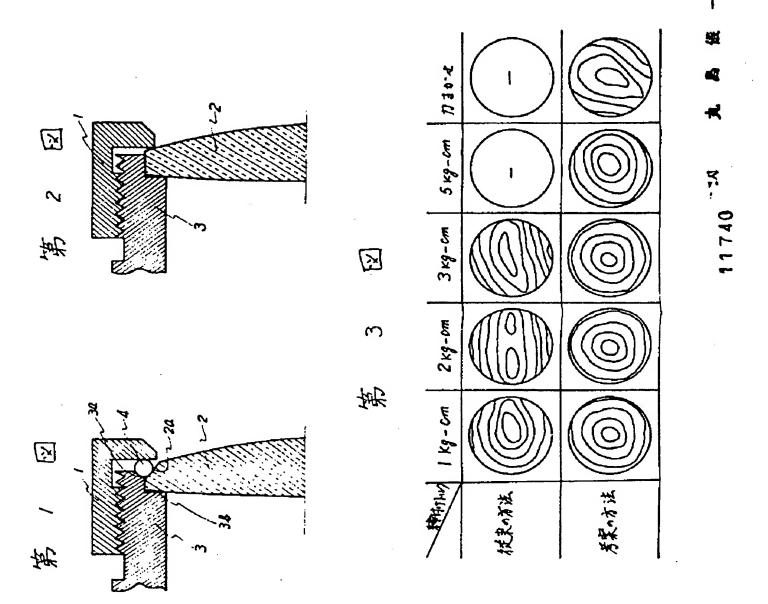
-

第3凶はレンズの歪発生を従来のものと本劣家 のものと比較したものである。

トレンズ押さえ頃、2:レンズ、2a:レンズ面取部、3:レンズ保持金物、3a:保持金物面取り部、3b:保持金物設部、4:0リング

出願人 キャノン株式会社

代理人 丸 島 餱 一 墨



49-11740-06

This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning Operations and is not part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

| Defects in the images include but are not limited to the items checked: |
|---|
| BLACK BORDERS |
| IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES |
| ☐ FADED TEXT OR DRAWING |
| ☐ BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING |
| ☐ SKEWED/SLANTED IMAGES |
| COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS |
| GRAY SCALE DOCUMENTS |
| ☐ LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT |
| ☐ REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY |
| □ OTHER: |

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.